

和大で気がついたこと

Helen Stewart

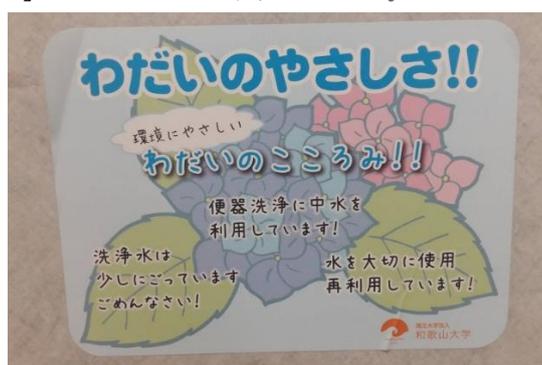
教育学部 交換留学生 オーストラリア

カーティン大学から半年間の留学生として和歌山大学へ来た。カーティン大学はパースに位置し、西オーストラリア最大の大学である。和歌山に来てから2ヶ月がたち、日本の生活に慣れた。和歌山の皆さんは温かくて優しく、毎日新しい経験ができ、留学が素敵な経験になっている。

和歌山大学では様々な場面でカーティン大学と違っており、オーストラリアで認識していなかった多くのことを考えるようになった。初めて和歌山に着いた時、大学の授業登録の違いが興味深かった。まず、和大学生は授業の最初の1週間は正式に授業に登録しないことを聞いて驚いた。これは学生が5万人以上通っているカーティン大学では考えられないことだ。登録が全部巨大なデータベースで行われるけど、和大では留学生は紙に書いて提出する。

このようなことを経験して初めてカーティン大学と和大の規模の違いを理解するようになった。不思議なことに、和大は学生が4千7百人だけで、キャンパスも更に小さいが、人の密度がカーティン大学とそんなに変わらないのだ。日常的に両大学のサイズの違いをあまり感じないのだ。

和大のキャンパスに初めて来た時、気がついたことは、お手洗いの水の色が茶色であったことだ。最初になぜ水はその色であるのか分からず、ただ変だと思い込んでしまった。それで、「和大のやさしさ」のポスターに気がついた。



トイレの排水は中水であるとわかった。中水というのは下水から一度処理された水である。一度処理しても、完全に夾雑物をなくするのは非常に難しく、電力を大変かかる。この理由で中水は茶色である。干ばつが深刻な問題であるオーストラリアの人にとっては、素敵な考えだと思う。飲用にできなくても、中水はトイレの利用にはふさわしい。トイレの水はどうせ流せば汚水になるのだから、綺麗である必要はないのだ。トイレでは上水を利用して流すのは浅はかでもったいない。

和大に来る前にこのような当然のことを考えたことがなかった。この程度の単純なこと

で外国にいと再認識をした。外国とは文化と土地の違いだけでなく、利用されているテクノロジーがかなり違うのだと初めて考えるようになった。カーティン大学もこのように中水の使い方を工夫できればいいと思う。

その反面、日本でマイナスの印象を受けたのは、一般的に水の消費に注意しないことだ。例えば、時間を気にせずシャワーを浴びたりする人が多いことに気がついた。西オーストラリアの水道局は4分のシャワー時間を理想としているので、この違いが気になった。このようなことを言っても、和歌山にいる2ヶ月の間にパースの2年間の量の雨が降った感じがするので、水の需要に応えるのは全く問題ではない。

もう一つの事例を挙げれば、日本には打ち水をする習慣がある。打ち水をオーストラリアでしていると、それを見た人々からもったいないと思われるだろう。逆に水が豊富にある日本では店内を冷やすの節電になる。それでも一般的には、水を処理したり、輸送したり、温めたりするのは全て電力がかかるので、水の消費を下げるのは節電になる。和歌山大学でもカーティン大学でも色々な方法で工夫して、環境を守ろうとしている。お互いに良い考えを共有すると更に資源と環境が大事にできると思う。

和大に来て、他に気がついたのは大学生活の違いだ。日本の学校と大学の部活について習って以来、ずっと部活に入ってみたかった。和大で混声合唱団に入団することができた。和大の合唱団は学生に経営され、毎週練習が10時間以上ある。指揮者も大学生で、素敵で明るい人だ。指揮するのは非常に難しいことで、感激した。合唱団の皆さんの努力と才能に感動させられた。初めて義務でもない活動でこのような献身的な態度を見た。

自然豊かな山を見ながら、合唱団の皆さんと一緒に歌うことの幸せは、きっと和歌山でしか経験できないものだろう。雨の日でも合唱団のみなさんは頑張って歌う。



これからも、和歌山大学に留学中に精一杯色々なことを経験し、頑張ろうと思っている。西オーストラリアに帰ったら、必ず、人々を驚かせたり、日本へ行きたくさせたりするような話がいっぱいできると思う。